

葉山町立上山口小学校

研究テーマ：つながりあい高めあう子どもを目指して～聴き・考え・表現することを通して～

1、実践の目的

本校では、これまで、学校教育目標「かしこく・なかよく・たくましく」の達成を目指し、全教育課程で「つながりあい高め合う子どもを目指して」をテーマに研究を6年間行った。

本年度は、低学年の生活科および、中・高学年の社会科の発展・合科的学習としての総合的な学習の時間について、ブロック研究を行ってきた。研究授業を通して、探究的な学びづくりとカリキュラム検討をおこない、指導の在り方について研究を進めた。

2、実践の内容

低学年・中学年・高学年の3ブロックで研究を行った。ねらいに沿ったカリキュラム作りを行いながら、ブロックで一つ研究授業を行った。

(1) 低学年ブロック

①教科 生活科

②单元名 つくってためして

③单元目標

- ・動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、身近なものを使ってできる遊びのおもしろさ、素材のもつ特徴や不思議さに気づき、それを使って遊ぶ方法を考えたり、伝えたり、遊びを楽しく工夫できたりすることができる。
- ・約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気づき、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

④ 目標達成の手立て

- ・五感をつかった体験を通じた学習の設定

- ・タブレットで写真や動画撮影

- ・活動を深める思考ツールの活用

- ・話し合い活動での言語ツールと形式

⑤ 手立てによる成果

- ・動画・PMI シートの活用の有効性の確認

- ・学びの環境づくりと課題の共有や共有により児童がスムーズに学び合いを行っていたこと。



(2) 中学年ブロック

①教科 社会科と総合的な学習の時間の合科

②单元名 上山口の絵屏風を未来へ

～地域の伝統や生活の変化～

③单元目標

- ・地域の方の協力を得ながら、地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々のことを知る。
- ・絵屏風を通して、生活の中で使われる道具の変化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、具体的な資料を通して、必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地域社会の一員として、地域への誇りと愛情、自覚を養い、貢献できることについて考える。

④目標達成の手立て

- ・教師の言葉がけと、発表するときの約束事の確認
- ・視覚教材の精選と活用、および付箋の活用

⑥ 手立てによる成果

- ・教材教具の精選と提示が適切であること

により、児童自身あるいは児童同士が既知の情報と未知の情報を進んで比較検討したり情報共有したりしながら、学ぼうとする姿勢を育てることができた。



(3) 高学年ブロック

①教科 社会科と総合的な学習の時間の合科

②単元名 上山口の棚田の未来
～棚田研究～

③単元目標

- ・興味関心のあるテーマについて進んで調べたり、自分の考えをまとめたり、調べた内容や自分の考えを深めたりして、適切に表現できる。

- ・米に関わる地域の方々との交流や米に関連する事象を調査することを通して、棚田や米のよさや問題に気づき、自分の生活との関係について考えようとする。また、自分にできることを考え、取り組もうとする。

④目標達成の手立て

- ・活動の後に振り返りの時間を設けることで、活動前と後の自分の考えの変化に気づき、文章にまとめられるようにした。
- ・めあてを掲示し、活動が常にめあてに沿ったものになるように声掛けをした。

⑤一学期のテーマ設定→夏休みの課題のもち方・とらえさせ方・考えさせ方→二学期以降の総合の学びへのアプローチへ続く一連の流れの中で、児童の学びの流れを大切に、常にめあてを意識しながらせまっていく大切さを確認できた。

3、実践の成果

- ・コロナ禍の状況ではあったが、臨機応変に対応し、研究テーマに基づく各ブロックの授業提案を実施できた。
- ・中・高学年では、社会科と総合的な学習の時間を合科的に扱うことで、各教科横断的なつながりや行事、活動の精選、今後のカリキュラム作り等、学校全体で検討し進めていくべき課題が明確になってきた。
- ・目標達成の手立てを明確に示して授業研究を行うことで、児童の実態とねらいに沿った成果を上げることができた。
- ・外部講師をオブザーバーとして、各ブロックの指導案・授業動画・全体会での討議内容等を共有し、講師から指導助言を得るとともに、研究を深めるヒントをいただくことができた。



4、今後の展開

生活科・総合的な学習の時間の学びが、児童の探究学習の育成につながるように研究を行っていくことが必要である。具体的には、①探究的学習についての教師の理解と指導方法についての研究②探究学習の充実に向けた課題の洗い出しと取組の方法③探究学習の実践④探求学習を通して児童を育成するためのカリキュラム作り⑤地域の特性や資源を生かしたカリキュラム作り⑥小中学校9年間を見通した学びの在り方の模索⑦葉山6校での情報共有と校内カリキュラムへの還元などを念頭に、研究を進めていく必要がある。